

金沢大学法学類
2013 年度「法理学」小テスト
11 月 29 日 1 限実施 / 出題: 足立英彦
解答・解説

1. 次の語句をそれぞれ 3 行以内で説明せよ。(各 2 点)

(a) 論理的同値

解答 複数の論理式のそれぞれの真理値が、それらの論理式を構成する原子式の真理値のすべての組み合わせにおいて、常に一致すること。

(b) 自由権

解答 ある行為について、その作為と不作為が許されており、かつ、その作為と不作為を妨害しないよう求める権利もある地位のこと。

解説 2012 年度小テスト 1(c) 既出。

2. 次の推論は論理的に正しいか。真理表を用いつつ説明せよ。(各 2 点)

(a) $A, \neg A \vdash B$

解答

		前提 1	前提 2	結論
A	B	A	$\neg A$	B
1	1	1	0	1
1	0	1	0	0
0	1	0	1	1
0	0	0	1	0

この推論において前提が全て真の場合はない。したがって、前提が全て真で結論が偽になる場合、すなわち反例はない。つまり、この推論は論理的に正しい。

解説 真理表が正しければ 1 点，説明も正しければ 2 点。 $(A \wedge \neg A) \rightarrow B$ の真理表を書いた上で、「この推論のすべての前提を連言で結合して構成される論理式を前件，結論を後件とする条件法の論理式 $((A \wedge \neg A) \rightarrow B)$ はトートロジー（恒真式）なので、この推論は論理的に正しい。」と説明してもよい。

(b) $A \rightarrow B, B \vdash A$

解答

		前提 1	前提 2	結論
A	B	$A \rightarrow B$	B	A
1	1	1	1	1
1	0	0	0	1
0	1	1	1	0
0	0	1	0	0

この推論において前提が全て真の場合は 1 行目と 3 行目である。そのうち 3 行目では結論が偽になっている。つまり、この推論には 3 行目という反例がある。したがって、この推論は論理的に正

しくない。

解説 $(A \rightarrow B) \wedge B \rightarrow A$ の真理表を書いた上で、「この推論のすべての前提を連言で結合して構成される論理式を前件、結論を後件とする条件法の論理式 $((A \rightarrow B) \wedge B) \rightarrow A$ はトートロジーでないので、この推論は論的に正しくない。」と説明してもよい。

3. 次の文を論理式に書き換え、ベン図でも表現せよ。ただし、次の解釈を用いること*1。(各2点)

Mx 「 x は肉料理である」 Fx 「 x は私の好物である」

- (a) 肉料理じゃない私の好物もある。

解答 $\exists x(\neg Mx \wedge Fx), \neg \forall x(Fx \rightarrow Mx)$ (ベン図省略, 以下同様)

- (b) 肉料理には私の好物はない。

解答 $\neg \exists x(Mx \wedge Fx), \forall x(Mx \rightarrow \neg Fx), \forall x(Fx \rightarrow \neg Mx)$

- (c) 私の好きなのは肉料理だけだ。

解答 $\neg \exists x(\neg Mx \wedge Fx), \forall x(Fx \rightarrow Mx)$

- (d) 肉料理はなんでも好きです。

解答 $\neg \exists x(Mx \wedge \neg Fx), \forall x(Mx \rightarrow Fx)$

4. 「 a は b に対して G を行うことを許されている」という命題 N と以下のそれぞれの命題の間の関係の名称と、 N が偽である場合のそれぞれの命題の真理値を書きなさい。(各2点)

- (a) N_1 「 a は b に対して、 G を行うことを禁止されている。」

解答 矛盾, 真

- (b) N_2 「 a は b に対して、 G を行うことを命じられていない。」

解答 小反対, 真

- (c) N_3 「 a は b に対して、 G を行うことについて自由である。」

解答 含意 (N_3 は N を含意する), 偽。

- (d) N_4 「 b は a に対して、 G を行うことを求める権利を有している。」

解答 含意 (N_4 は N を含意する), 偽。

解説 「 b は a に対して、 G を行うことを求める権利を有している。」($RbaG$) と、「 a は b に対して、 G を行うことを命じられている」($OabG$) は同値。この $OabG$ は、「 a は b に対して G を行うことを許されている」($PabG$) を含意している。そのため、後者が偽なら前者も偽となる。

5. イェーリング『権利のための闘争』にある以下の文章の空白を埋めよ。(各1点)

「自己の生存を主張することは、生きとし生けるものの最高の法則である。この法則は、あらゆる生きものの自己保存本能として示されている。しかし、人間にとっては、肉体的な生存ばかりでなく、(1) 的なものとして生存することも重要であり、そのための条件の一つが (2) を主張することなのである。人間は、自己の (1) 的生存条件を (2) というかたちで保持し、守るのであって、(2) を持たない人間は (3) に成り下がってしまう。」

解答 1 倫理 2 権利 3 獣

解説 同書(岩波文庫、1982年)50頁より引用。1は「道德」、3は「動物」等でも可。

6. 法理学の課題(問)を、実定法学の課題と対比しつつ、5行以内で説明しなさい。(3点)

*1 戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会、2000年)120頁練習問題27より出題。

解答 憲法学，民法学，刑法学などの実定法学は，「何が法か？」という問に答えを与えることを課題とする。すなわち，「法」という集合が何であるのかはとりあえず明らかであるものとして問題にせず，どのような要素がこの法という集合に属するのかを検討する。これに対して法理学は，この，「法」という集合は一体どういうものなのか，すなわち「法とは何か？」という問に答えることを課題とする。

7. 講義に対するご意見，ご感想，改善提案等を，答案用紙に記入してください。（任意）

回答 板書の読みにくさ（字が小さいなど）や誤字の指摘がありました。気をつけたいと思います。

参考情報（12月20日現在）

履修登録数（聴講2名含む）	受験者数	平均点
137	128	18.3

* 30点（満点）1名，29点3名，28点5名。

以上